

収量性抜群!
中早生エダマメ新品種(試作系統名SB1017)

「サヤタカラ」の紹介

特性と栽培の要点

雪印種苗株式会社
園芸作物研究グループ
野菜研究チーム 主任
大橋 真信

1

1.はじめに

エダマメは夏の味覚の定番として人気の高い野菜で、タンパク質、糖質、脂質、カルシウム、ビタミンB1、B2などを多く含み、栄養価の面でも評価されています。そのためエダマメの消費は増加傾向にあり、以前は夏の風物詩であったエダマメも、近年は一年を通じておいしいエダマメを食べたいという要望が高まっています。

エダマメは高温を好む作物のため、一般地、暖地のハウス、トンネル栽培が収穫期を迎える5月頃からしだいに収穫量が増え、7~8月頃にピークを迎えます。しかし、高温を好むエダマメも、最高気温が30℃を超える真夏には開花後の花落ち、莢落ちが増加して着莢が不安定になり、高収量を期待するのは難しくなります。特に近年は夏場の高温や長雨などで作柄が安定しなくなっています。

今回発表する『サヤタカラ』は、極めて着莢性に優れ、大莢で食味も良好な中早生品種です。今回は本品種の特性と栽培のポイントについてご紹介いたします。

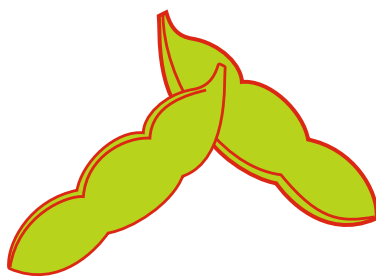
2.『サヤタカラ』の特徴

~抜群の着莢性~

エダマメは咲く花の数に対して、収穫物である莢の数が非常に少なく、開花した花が莢になる割合は50%以下と言われています。受粉後結実して莢になるためには温度や土壌水分が重要で、開花期に極端な高温や低温もしくは乾燥条件のときは著しい着莢不良となり、結実割合が20%以下になることもあります。『サヤタカラ』は極めて着莢良好な品種であり、開花期の環境が厳しい作型でも比較的着莢が安定します。

~極大莢で食味良好~

エダマメは、食味はもちろんですが、莢の見た目も重要で、大莢で実入りの良い品種が好まれます。『サヤタカラ』はポ



リウム感のある極大莢であり、食味も甘味が強く良好で、市場性も良好な品種です。

3.『サヤタカラ』の栽培特性

1) 熟期

露地栽培、露地マルチ栽培で『サヤムスメ』よりも2~3日遅い熟期の中早生種です。一般地の標準露地栽培で播種後87日前後での収穫になります。



▲写真『サヤタカラ』の草姿

表1. エダマメ品種の特性および収量性

品 種 名	開花期 (月/日)	えだまめ 生食適期 (月/日~月/日)	主茎長 (cm)	主茎 節数	分枝数	2粒莢		稔実 莢数 (ヶ/株)	平均 一莢重 (g)	多粒 莢率 (%)	上物 莢率 (%)	規格 内収量 (kg/a)
						莢長 (cm)	莢幅 (cm)					
【平成24年5月28日播種 北海道研究農場(長沼町):露地】												
サヤタカラ	7/26	9/3~9/7	65.6	13.1	3.5	5.9	1.37	73.0	2.87	33.6	74.5	143.3
サヤムスメ	7/24	9/1~9/8	45.8	10.6	3.5	6.1	1.37	65.4	2.71	28.0	75.3	120.2
ユキムスメ	7/25	9/2~9/6	62.3	13.2	4.2	5.2	1.27	72.8	2.38	26.4	66.6	113.7
【平成24年4月27日播種 千葉研究農場(千葉市):露地マルチ】												
サヤタカラ	6/13	7/11~7/15	38.0	10.0	4.3	6.2	1.48	50.0	3.06	29.2	77.2	85.1
サヤムスメ	6/10	7/9~7/15	32.0	9.3	4.7	6.2	1.41	45.4	3.01	37.9	75.4	77.4
ユキムスメ	6/9	7/8~7/12	32.3	10.0	5.7	5.5	1.28	57.0	2.48	34.0	78.0	80.1

2)草姿

大葉で生育は旺盛です。草丈は「サヤムスメ」よりも高くなりますが、主莖が太くしっかりしているため倒伏や折損には比較的強い傾向があります。

3)莢の形質

「サヤムスメ」並の極大莢で、3粒莢の割合は高いため外観に優れます。莢の色はやや淡緑色ですが、色ムラがなくきれいです。

4)収量性

開花期以降の環境が不良な条件でも落花や落莢が少なく、特に高温条件での着莢性も比較的安定しており、収量性は良好です。

4. 適応地域と播種適期

全国の露地マルチおよび露地栽培に適しますが、ハウス、トンネルなどの早播き作型では蔓化して倒伏しやすくなるため播種期、作型を厳守してください。

5. 栽培の要点

1) 肥培管理

エダマメは根に根粒菌が着生し、空気中の窒素を固定して肥料分とする特性があります。このため一般には窒素肥料

栽培作型

地域	作型	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
北海道 東北 北高冷地	マルチ 露地			●	●	—	■	
一般地 暖地	マルチ 露地		●	●	—	■		

●●：播種期 ■：収穫期

は初期生育を促進するための少量だけで十分です。『サヤタカラ』は生育旺盛ですので、さらに基肥を控えたほうが良く、減肥栽培が可能です。逆に肥料が多いと倒伏や着莢不良の原因になるため注意が必要です。

2) 草勢の管理

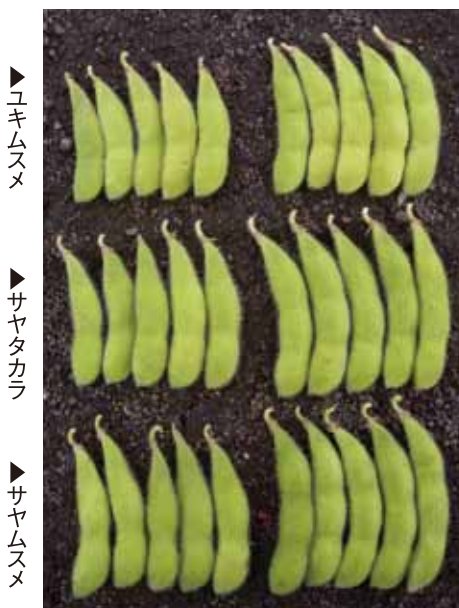
『サヤタカラ』は着莢性には優れていますが、不稔莢などの屑莢が多くなると選別作業の手間が増大します。不稔莢や莢の太りの不揃いは草勢が強すぎる場合や生育不良の場合に発生が多くなります。このため、無理な早播き、遅播きをしないようにし、排水不良による湿害の発生にも注意します。一方で開花期以降の水分不足は落花や不稔莢の原因となりますので、土壌が極度に乾燥しているときには少量ずつこまめに灌水を行うようにします。

3) 適期収穫の徹底

エダマメの収穫適期は厳密には2~3日程度で、適期を過ぎると甘さが急激に落ちますので収穫適期を逃さないように注意が必要です。『サヤタカラ』は「サヤムスメ」よりも莢色が淡く適期後の黄化が早い傾向がありますので、黄化が始まる前に速やかに収穫を行うよう心がけてください。

6. おわりに

近年は異常気象により農作物の作柄が安定せず、収量を確保することが年々難しくなってきました。今回ご紹介しました『サヤタカラ』は環境の変化に強い多収型品種です。本品種の特性を生かして良品を安定出荷されることを期待しております。



▲各品種の莢の形状比較



▲各品種の草姿比較 左から『サヤムスメ』『サヤタカラ』『ユキムスメ』